

JICA 留学生プログラムで初めて琵琶湖・沖島を訪問 「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」プログラム開催(3月3日～4日)

独立行政法人国際協力機構関西センター(以下、JICA 関西)は3月3日(金)～3月4日(土)、アジア、アフリカ、中南米などからの JICA 留学生*15 名を対象に、「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」について講義と実際の住民の暮らしから理解する1泊2日のプログラムを実施します。例年実施している琵琶湖博物館での講義と見学に加えて、JICA 留学生向けのプログラムでは初めて沖島を訪問します。

日本最大の湖である琵琶湖は 400 万年の歴史があり、2000 種以上の生き物が暮らしており、固有種もたくさんいます。人も古くから湖のまわりで、その豊かな自然を利用して生活をしてきました。そんな琵琶湖では、水環境の開発(治水・疎水)とともに、「石けん運動」に代表される環境保全や市民運動をおこなった歴史を持ち、多くの事例・実績が蓄積されています。3月3日には、これらの経験について、国際湖沼環境委員会(以下、ILEC)や滋賀県立大学の講師から話を聞いた後に、琵琶湖博物館を見学します。

沖島は、約 300 人が住む琵琶湖最大の島あり、世界的に見ても湖沼の島に人が住む例は少なく学術的にも注目されています。4 日には、前日に学んだことを踏まえ、沖島と沖島の人々が琵琶湖の環境の変化からどのような影響を受けてきたかを地元漁師の講義から、また、島の現状を流木や漁網などの再利用したアート作品の見学や島歩きなどから学ぶこととしています。

<「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」基本情報>

日時: 2023年3月3日(金)～3月4日(土)

実施場所: 琵琶湖博物館(3月3日)、沖島(3月4日)

参加対象者: : JICA 留学生 15 名(出身国: アルジェリア、マレーシア、ナイジェリア、キューバ、チュニジア、ジョージア、マダガスカル、グアテマラ、フィリピン、セネガルなど)

<当日のスケジュール>

| 時間 | 内容・ポイント | 講師 |
|-------------|-----------|-----------|
| 3月3日<1日目> | | |
| 10:30-10:45 | JICA 関西挨拶 | JICA 関西職員 |

| | | |
|------------------------|--|---------------------|
| 10:45-12:15 | 講義①「琵琶湖の開発の歴史と重要性の認識」 | ILEC 中村副理事長 |
| 13:15-14:45 | 講義②「日本の高度成長期(1960年～)における住民活動」 | 滋賀県立大学 井手教授 |
| 14:30-16:30 | 琵琶湖博物館 見学 | |
| 3月4日<2日目> | | |
| 10:25-12:30 | 沖島の概要、流木や漁網などを利用したアート作品、 BIWAKO ビエンナーレなどの紹介 | 川瀬氏 (元地域おこし協力隊) |
| 12:30-13:30 | 昼食:地元食材の弁当 | 湖島婦貴の会提供 |
| 13:30-14:30 | 沖島の漁業、琵琶湖の水環境の変化、 世界農業遺産に認定された琵琶湖システムの紹介 | 沖島漁業協同組合 組合長 奥村氏 |
| 14:30-16:00 | 沖島内を散策 | |

・ご希望があれば日英も可能ですので、ぜひ取材をご検討ください。取材をご希望の報道関係者のみなさまは、3月2日(木)17時まで以下の連絡先までお問合せください。

・天候など諸条件で各イベント内容が変更する可能性があります。

・メディア関係者様におかれましては交通手段をご自身で手配いただきたく存じます。沖島へは堀切港から船で移動します。船は1~2時間に1便と便数が限られているのでご注意ください。

*JICA 留学生:

JICA は開発途上国の国づくりの担い手となる未来のリーダーを「JICA 留学生」として受け入れています。留学中、大学院での学位取得の研究とともに、日本の伝統・文化に対する理解を深めてもらい、帰国後、知日派・親日派のリーダーとしてそれぞれの国の発展に貢献することが期待されます。2/27日現在、関西2府4県では163名のJICA 留学生が13大学で学んでいます。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 開発大学院連携課 三浦 眞暉

TEL : 080-7144-6036 E-mail : Miura.Maki@jica.go.jp



琵琶湖博物館での JICA 留学生(2021年)



沖島